

2月・月例研修会・下ツ道を歩く

下村 晴文

下ツ道は、7世紀後半には整備されていたことが日本書紀にも書かれていましたが、最近の発掘調査で道幅23m、側溝まで含めると幅29mにもなる道路の跡が発見され、その存在が証明されました。現在では、橿原市見瀬丸山古墳あたりから藤原京を通り、平城京羅城門、朱雀大路へと続く古道が再現されています。今回は、近鉄二階堂駅から稗田環濠集落を通り、羅城門跡、近鉄九条駅まで約8kmの古道を楽しみました。

平成30年2月13日9時50分：近鉄二階堂駅に会員18名、観光案内ボランティア1名の総勢19名の参加者が集合しました。まず、リーダーの富井さんの挨拶とコース説明の後、ボランティアの井浜（いたに）靖子さんの紹介がありました。井浜さんの先導で、下ツ道を南へ下り膳夫寺跡（かしわでてらあと）を目指しました。

10時7分：膳夫寺跡に到着。聖徳太子の妃、膳夫姫に因み、この地に寺が造営されました。寺の姿が二階造りに似ていたことから、この辺りを二階堂と呼ぶようになったそうです。今は、跡地に地蔵堂が建てられ、中に天正九年銘のある石造半跏地蔵菩薩がお祀りされています。

10時35分：菅田（すがた）神社鳥居前に到着。神社は、古代製鉄の神・雨目一個神（あめのまひとのかみ）を祀る神社ですが、本殿は鳥居からはるかかなたの遠くにあります。鳥居だけがここまで出張ってきているのです。このことから、井浜さんは、地元の人、すぐにでしゃばる人のことを「菅田神社の鳥居のような人」と言うとのこと、ならやまでも、「菅田神社の鳥居のような人」と言われたいように気を付けたいものです。

10時45分：嫁取り橋到着。下ツ道をさらに北へと進み大和郡山ジャンクションの下を通り、珊瑚珠（さんごじゅ）川に出ました。昔、失恋で身投げした娘の霊が大蛇になり、花嫁がここを通ると大雨を降らせて花嫁を淵に引きずり込んだそうです。それで川に架かる橋を嫁取り橋というよう



になったそうです。女の嫉妬は怖いですね。

11時22分：番条環濠集落到着。整備された稗田環濠集落が有名ですが、ここでは環濠が昔のままの姿で残されています。環濠内には、大きな屋敷があり、当時の勢力が偲べれます。

11時35分：番条環濠内にある中谷酒造に到着。井浜さんから、ここで試飲しながら昼食にしたらという提案があり、当初は賈太（めた）神社の境内で昼食の予定でしたが、「試飲しながら」という言葉でころりと計画を変えました。何という柔軟性でしょうか。社長から、創業が嘉永年間に始まること、正暦寺で始まった酒造りが番条氏に受け継がれ、大和川の水運を利用して大坂へ運ばれるようになり発展したことなどの話をしてもらいました。因みに麴菌による清酒造りは大和正暦寺が最初で、灘が酒造り発祥の地と言っているのは、濁りを炭で除去した製法で次元の違う話であるところりと自慢？をのぞかせていました。試飲4本をペロリ、16本お買い上げで出発。

13時5分：賈太神社到着。稗田環濠集落の中にあり、古事記の伝承者である稗田阿礼（ひえだのあれ）をお祀りしています。ここでも官司の奥様に詳しく説明をしていただきました。

14時15分：羅城門跡到着。門跡は、道路の下になっていますが、道路からは遠く朱雀門を見ることができました。京外に住んでいた下級官僚は、ここから平城宮まで約4km、毎日通勤していたかと思うと、いつの時代も宮仕えは大変です。

15時18分：近鉄九条駅到着。途中最古の貨幣、富文銭（ふもんせん）出土地、秋篠川の船着き場、平城京西市跡などを見ながら、無事に駅に到着。お疲れ様でした。